

# LALTによる月の地形図と余色立体図の作成

## Luna topographic map and anaglyphs by LALT

# 神谷 泉 [1]; 荒木 博志 [2]; 祖父江 真一 [3]  
 # Izumi Kamiya[1]; Hiroshi Araki[2]; Shinichi Sobue[3]

[1] 国土地理院; [2] 国立天文台 RISE; [3] 宇宙機構  
 [1] GSI; [2] RISE, NAOJ; [3] JAXA

<http://gisstar.gsi.go.jp/selene/>

2007年9月に打ち上げられたJAXAの月探査衛星「かぐや」(セレーネ)に搭載されたLALT(レーザ高度計)は、月の表面の形状を計測している。「かぐや」は、当初予定していた1年間のミッションを終え、現在後期運用段階に入っている。2008年大会においては、2週間分の観測データを使用し、報道発表とホームページ掲載用に作成した月の地形図を展示した。今回、全ミッションのデータを使用して、より詳細な月の地形図を作成し、印刷した。また、余色立体図を作成した。これらを展示する。

地形図作成の目的は、学術的な成果の公開というより、見て楽しく、印象的な地図の作成にある。月の地形図では、円形のクレーターが目立つ。クレーターのイメージを保つため、地図投影法は、月面上の小さな範囲の円が図上でも円となる正角図法から選定することにした。月は地球から見える表側と見えない裏側にはっきり分かれるので、月の表側と裏側の平射図法の組み合わせとした。配色は、宇宙空間をイメージした黒を背景とし、月が丸く幻想的に浮かび上がるように淡い色の段彩と、暗い灰色の等高線を組み合わせた。地図の作成には、ArcGISを使用した。

国土地理院内に検討会を設け、地形表現と芸術性の観点から地図の仕様を検討した。委員の名前を記して、謝意を表す。安藤久満、今溝孝男、門脇利広、小荒井衛、坂井尚登、長谷川裕之、菱山剛秀、山根清一(敬称略)。

